

第7回鉄軌道サービス部会 議事録

日 時： 令和7年11月17日（月）10：30～12：00
場 所： 富山県民会館3階 301号室
出席者： 委員名簿のとおり

1 開会

2 挨拶

●田中交通政策局長

皆さんおはようございます。

本日7回目となるが、地域交通戦略会議鉄軌道サービス部会を開催したところ、大変お忙しい中、ご出席いただき、本当にありがとうございます。また、ご多用ということで、宇都宮部会長には本日はオンラインでの参加となりました。お忙しい中、ありがとうございます。

ご案内のとおり、県ではこれまで、委員の皆様方にもご協力いただき議論を重ね、県の地域交通戦略を昨年策定したところであります。戦略では、地域交通サービスを地域の活力・魅力に直結する公共サービスと位置づけ、「投資」・「参画」をキーワードに取組みを進めております。

戦略策定から2年目を迎えた本日の部会では、戦略で定めている目標の進捗状況が明らかになったためご報告させていただくとともに、各事業者、また市町村、利用者と連携した「投資」・「参画」に関する目標達成に向けた取組みなどをご説明し、皆様に議論をいただくこととしております。

皆様方には、戦略に基づく取組みをさらに前へ進めていただくとともに、それぞれの立場から忌憚のないご意見をいただくようお願いいたします。

それでは、今日よろしくお願ひいたします。

3 議事

- (1) 地域交通戦略の目標の進捗状況について
- (2) 地域交通戦略を踏まえた取組状況について

●宇都宮部会長

それでは本日ですが、大変申し訳ございません、オンラインでの参加ということになりますけれども、よろしくお願ひします。

早速、議事に入りたいと思います。

昨年の2月、お話をあったとおり、富山県地域交通戦略が策定され、現在、それに

基づいて取組みが進められているということあります。

鉄軌道サービス部会においても、ウェルビーイングの向上をもたらす最適な地域交通サービスの実現を目指して、具体的な施策に取り組まれていることかと思います。

本日は、その計画の目標に対する最新の進捗状況が明らかになったということですので、そちらを事務局からご報告いただき、戦略を踏まえた取組状況について合わせてご報告してもらおうかと思います。

その後、委員の皆様に戦略の目標達成に向けた意見交換、ということにさせていただこうと思います。

それではまず事務局の方からご説明をお願いいたします。

●事務局

(資料1及び2に沿って説明)

●宇都宮部会長

ありがとうございました。

改めて、さまざまな取組みがなされているのだなと、非常に印象深い取組みがあるような気がいたしました。

その上で、そういう施設の中で、先ほど数字の説明がありましたが、戦略に掲げられている目標も着実に進捗していると、そういう印象でございます。

こうやって議論を重ねて、戦略を作り、その取組みが具体化しているというのは成果なのかなと思うわけですが、今後またさらに目標の達成に向けて、より改善できること、議論すべきことがあると思います。

ということで本日ですけれども、これからは委員の皆様からご意見を伺いたいと思いますが、特に、やはりこの鉄軌道サービスレベルの向上に向けた取組状況を踏まえ、今後さらに強化する、改善する、良い方向に持っていくたい、こんなご意見がいただければありがたいかなというふうに思います。

また、先ほどご説明があったが、それに対しての補足等の説明ももちろん歓迎ですので、何かあれば合わせてご発言いただきたいと思います。

それでは私から指名した順にご発言をお願いしたいと思います。

まずは富山大学の本田委員、お願いいいたします。

●本田委員

富山大学の本田でございます。今日もよろしくお願いいいたします。

まずは資料の説明ありがとうございます。では何点かコメントを申し上げたいと思います。

まず資料1の進捗状況についてですが、項目によっては目標にかなり近づいているものもあるのかなと思います。徐々にではあるが、目標に近づいていくことが期待できる数字ではないかと思っています。

それから資料2の方ですが、多くの取組みをご紹介いただき、改めて県内でいろんな取組みが行われているということを認識したところでございます。

冒頭にもお話があったとおりですが、県の地域交通戦略で公共交通を公共サービスと位置づけ、「投資」と「参画」という考え方で、さまざまな関係者が地域公共交通に対する役割を担っていくということを打ち上げたわけですが、私たち大学の人間については、主に「投資」に取り組む自治体・行政さん、それから「参画」を担う県民・企業さんの、接着剤のような役割を担っているのではないかと考えています。

その中で私自身もさまざまな「参画」というものに取り組んでいるところであり、1つは、先ほどご紹介くださったとおり、資料2の13ページにある「沿線まちづくりとしての参画」ということで、富山大学の都市交通デザイン学科の、学生たちのアイデアによる公共交通の利用促進のイベントというものを開催いたしており、ちょうど昨日・一昨日と、あいの風とやま鉄道を対象とした「あいの風 駅めぐりラリー」という、クイズ・謎解き・スタンプラリーを組み合わせた、ゲーム形式のイベントというのも実施したところでございます。

関係者の方々にいろいろご協力いただき、ありがとうございました。新聞にも取り上げていただき、それなりの成果があったのかなと思っています。

その他、県の東部地域については、富山地方鉄道さんの利用促進につながるようについて、昨年の4月と11月、学科の学生と富山県の若手職員の方々とコラボで、地鉄の鉄道線全線を対象にして「地鉄すごろく」という、これも同じようなゲーム形式のイベントですが、それを実施しましたほか、今年の4月ですが、こちらの方は地鉄の市内電車を対象に謎解きゲームイベントを行うというような形で、特に普段鉄道を利用しておられない方を対象に、鉄道を使った街歩きによって、富山地鉄の全線を楽しんでもらうという取組みを行いました。

それから一方で、県の西部地域の方ですが、再構築事業を進めている城端線・氷見線の沿線で、特に現在・将来の鉄道ユーザーになるだろうと思われる高校生とか大学生を巻き込んで、沿線にお住まいの方々と勉強会とかワークショップ、アイデアソンというものを開催しているところでございます。

そういう際にいつも申し上げるのは、沿線地域が持続可能な都市として生き残るために、これが最後のチャンスじゃないか、ということです。

普段は利用していないとしても、この城端線・氷見線について、ぜひ「自分ごと」として考えてほしいということで申し上げているところでございます。

特に商工会議所さんとか市民団体との連携、それから「探求の授業」というのが高校で行われていますが、そういうもののを通じまして、氷見高校とか高岡南高校、それから砺波高校の生徒たちと、鉄道の利便性とか、あるいは沿線の住民の方々の関心をどうやって高めていくか、そういうことを議論しているんですけども、例えば高校生は合同でアンケート調査を実施したりしており、若い発想で「持続可能な公共交通」に対する課題を洗い出すというような作業を、自分ごととして取り組んでくれていると思います。

そういう取組みを通じまして、高校生あるいは沿線の市民の方々から、具体的に「投資」とか「参画」につながるような様々な意見とかアイデアというのも出てきていますが、如何せん、車社会の富山県なので、高齢者になってから公共交通を利用してもらうというのは非常に非現実的で、若いうちからいかに日常生活で公共交通を利用していただくかということが重要と思っております。

それから、先ほど同じような形で企画きっぷの話が出たかと思います。資料の 10 ページか 12 ページあたりでご紹介いただきました。私もよくこの企画きっぷを利用させてもらっていますが、特に大学生は「お金がない」ということで、この使い勝手がよくてお得な企画きっぷに非常に敏感です。

大学生同士の口コミでこういったものが広がっていくので、ぜひ企画きっぷを検討される際には、彼らの意見というのも参考にしていただけたらいいのかなと思っています。

あと最後ですが、富山地方鉄道さんの鉄道線については、本日も資料の 9 ページにあるとおり、「あり方検討会」というのが昨年の 11 月に設置され、今年度になってから 3 つの分科会で 5 回開催され、維持や活性化について検討されているということのようですが、私も新聞とかテレビ報道の情報しか持ち合わせてないのですが、地鉄さんが来年 11 月の廃線を視野に入れているということ、それから沿線自治体に対しては年内に支援策を示すようにということが求められていると報道されており、大変心配しているところでございます。

私自身も、今一部廃線になった能登半島の「のと鉄道」のことも研究していますが、残念ながら地元がいくら望んでも、鉄道というのは一度廃線になると復活するというのはなかなか難しいというのが現状かと思います。

そういうことを考えると、特に富山地方鉄道さんの鉄道線というのは路線延長も長いですし、県内の交通ネットワークの形成とか維持という観点からすると、廃線するかどうかについては、それこそさまざまな観点から十分に検討した上で判断する必要があるのではないかと思っています。

そういうことを踏まえると、今は年内を期限とされているこの検討結果について、急ぐのではなく、もう少し内容の詳細な検討とか、あるいは十分な議論の時間をかけて進めていく必要があるのではないかと切に思っているところでございます。

大変長くなりましたが以上でございます。

●宇都宮部会長

ありがとうございました。

それでは続きまして、西日本旅客鉄道の川上委員お願いいたします。

●川上委員

JR 西日本の川上でございます。平素より弊社の事業をご理解、ご協力いただき、感謝申し上げます。

城端線・氷見線については、再構築実施計画に従い、利便性や持続性の向上など、まさに地域交通戦略の目標達成に大きく寄与する新型車両の導入、地上設備の工事を引き続きしっかりと進めてまいりたいと考えております。

またご紹介がありましたとおり、移管に向けた気運醸成についても、県さんをはじめ沿線市の皆様と協力して継続して取り組んでまいりたいと考えております。

高山本線については、地域交通戦略を上位計画として、「高山本線ブラッシュアップ基本計画」を令和6年3月に富山県・富山市まと策定させていただいております

本日ご紹介ありました、西富山駅の新たなアクセス通路の整備や、千里駅のパークアンドライド駐車場の拡張も、計画で策定した「ありたい姿」に向けた具体策の1つとして実施されており、非常にありがたく受け止めています。

この他にもさまざまな施策や具体策を計画の中で設定されていますので、引き続き高山本線の「ありたい姿」の実現、富山県さんの地域交通戦略の実現、目標達成に向けて、皆様と取り組んでまいりたいと考えておりますので、引き続きご協力をお願いしたいと思います。以上です。

●宇都宮部会長

ありがとうございました。

では続きまして、あいの風とやま鉄道の伍嶋委員お願いします。

●伍嶋委員

あいの風とやま鉄道の伍嶋でございます。いつも当社の運行について、本当にご支援いただいて感謝申し上げたいと思います。

先ほどいろいろ資料でもご紹介ありました、県の方で取り組んでおられる「電車・バスで行こう！」とか、いろいろそういう形で、これまであまり電車・バス、公共交通機関を利用されていない方に、できる限りその便利さをまずは体験していただく、これが非常に大事だなと思っています。

当社ではこれまで様々な形で、特に利便性を上げるという取組みを行ってまいりました。

1つはダイヤの改正で、パターンダイヤを取り入れ、定期的に頻度を高めるという取組み。また「あいトレ」ということで、当社の運行の状況がリアルタイムで、利用者の皆様が把握できるとか、そういった利便性の向上を目指してきました。

また片方では、やはり高齢化が進展するということで、バリアフリー、こういったものに取り組むために、エレベーターの設置であるとか、あるいはスロープとか、様々な取組みを行ってきたところでございます。

そのほか、先ほども紹介があったが、企画きっぷ。これもやはり、県内にお住まいの方々は、県内に住んでいても、他の市町村の状況あるいはイベント、こういったところへの参加があまりないのではないかということで、できるだけ安価で移動できるように企画きっぷに取り組んでまいりました。

今後の取組みですが、やはり当社としては、人口減少が著しい中、いかに利用者の皆様に、定期的に、しっかりと、安定的に乗っていただくか。やはりこれが一番大事なことであるというふうに思っています。そういう意味では、より便利に、また地域づくりと連携しながら、様々な取組みを、これからも取り組んでいきたいなというふうに思います。

便利さ、利便性を上げるということについては、先ほどもご紹介があつたけれども、駅を拠点として、そこから目的地までさらに動きやすくする、やはりこれが二次交通の充実ということで、これからもっと大事になってくるのではないかというふうに思っています。

沿線の市町では、コミュニティバスとか、あるいはデマンドバスとか、様々な取組みをされていますが、それに加えて、例えば県外の観光客の皆様、またビジネス客、こういった方々が自分のタイムスケジュールで、その駅周辺の市町のいろんな目的地に向かうと、このためにカーシェアというものを試験的に導入させていただきました。

これはトヨタモビリティ富山さんと連携をしながら、ということで、また滑川市では実証実験として、その他の公共交通機関と絡み合わせて、どんな便利さが提供できるのか、こういったことを今年度いろいろ実験しているというものでございます。

これからも駅を拠点としたネットワークの充実、これはやはりさらに進めて、今まで目的地の駅まで行ったがその先へどう動くか、あるいは自宅から駅までどうやって通うか、そこら辺りを少しでも解消して、便利さを上げるように取り組んでいきたいなというふうに思っています。

また駅だけではなくて、やはりダイヤの改善についても、中川交通政策監からもご指導をいただきまして、さらにパターンダイヤを拡充する、エリアを拡充する、そういった形で、これからもより利便性を上げるように努力をしてまいりたいと思います。

こういったことを通じて、さまざまな努力、取組みをしていますが、さらにお客様が求めるニーズは何かということで、これを把握するために、今年度、年末から来年度にかけて、利用者の皆様に「利用促進アンケート」というものを行うように計画をしています。これによって、お客様が、どのエリアにお住まいの方々が、あるいは年代別、いろんな形で、どういうニーズがまだまだ求められているのか、こういったことを的確に把握をして、当社としても万全の体制で臨んでいきたいなというふうに思っております。

最後になるが、やはり安定運行ということがかなり求められるので、冬期の雪対策、そういったものとか、事前のさまざまな情報提供、こういったことを通じて、「公共交通機関が本当に便利だな」と思っていただけるように、さらに努力をしてまいりたいと思います。以上でございます。

●宇都宮部会長

ありがとうございました。

では続きまして、万葉線の楠委員、お願いいいたします。

●楠委員

万葉線の楠です。

私の方からは、資料の 13 ページ、14 ページの先ほど説明していただきました「ドラえもんトラム」ですが、3 年に一度のラッピングに関して、事前に藤子プロの方と調整させていただき、お許しを得た中で、県の補助も頂戴して、万葉線の車内にもラッピングを施すということで、この度は結構、外国、特に台湾の方からの旅行客が多いことから、県ならびに市の観光協会が台湾の方に出向いて営業していただいている関係もあるのかなと想像していますが、結構見えられるということから、車内には 34 種類のドラえもんの秘密道具が描いてありますが、そこには繁体語と英語を新たに加えて、身近に思ってもらえるような形にしました。

数字の話になりますと、特に団体で見えられる方、県内あるいは隣県の観光地を周ってこられる観光客なのかなと思いますが、今年度、ドラえもんの電車に乗りたいということで、団体だが、668 人の方に乗車していただきました。

その中で、憶測でものを言うのも何ですが、台湾の方で、結構いろいろなガセネタなんかで「日本で 7 月に大変なことが起きますよ」というようなこともあったのかなと思いますが、その頃は少し落ちた中でも 668 人の乗車がありました。

もう 1 点、同じ 14 ページになりますが、「お出かけきっぷ」です。

これについては、公共サービス的な生活路線としての通勤あるいは通学で利用していただいている方々の他に、親子でお出かけということで、それまでは足を伸ばすには至らなかつた層が、子どもさんを連れて、大人の分だけの運賃を払えば子どもさんの分はそちらの方のきっぷで負担していただけ、安価ということで、これについては 603 枚、大人の方のきっぷの数からの話になりますが、何もしないことから比較すれば、これだけの方々が新たな行動を起こしていただき、万葉線の沿線のいろいろなことを学んでいただける、将来ある子どもさんへの投資の機会を与えたとなっているような取組みとして、万葉線としても捉えています。

途切れずにいろいろなところ、あいの風が乗れるよ、あれも乗れるよ、あそこ行くときにはどうすればいいんだと、こういうような企画において、行って来れるよ、ということで。万葉線だけやっているような従来の形、記念きっぷなどもありますが、結構広範囲に移動をする目的を持って行くときに、じゃあどうすればいいんだとなつたときに、「これを持っていけば行ける」ということで、保護者の方々にとっても、優しい企画ということで、このような企画、主導的にやっていただければ、当然当社の方も参画させていただきたいと思っています。

私の方からは以上です。

●宇都宮部会長

ありがとうございました。

続きまして、富山地方鉄道の新庄委員、お願いいいたします。

●新庄委員

富山地方鉄道でございます。

この部会において、弊社鉄道線の課題についても取り上げていただき、ありがとうございます。

私からは、ここまで発言と少し内容、質が異なりますが、現在存廃議論となつてゐる弊社鉄道線の現状について、少し触れさせていただきたいと思います。

ご承知のとおり、弊社の鉄道線は路線の総延長が 93.2km あり、地方の中小民間鉄道の中では最も長い、さらには、勾配のきつい山間区間も多くあり、運行には非常に負担もかかる路線です。その路線を維持するために、これまで人口減少あるいは少子高齢化など、利用客が減り続ける中にあっても、いち早くパターンダイヤ、企画乗車券、そしてサイクルトレイン、新駅の設置など、利用者増に向けて取り組んでまいりました。一方で費用面においても、弊社の技術力を最大限活用して節減に取り組むとともに、労使理解のもと、人件費の圧縮を中心とする合理化・効率化に努めてきております。

先ほど本田委員からは、「鉄道は一度廃線すると復活が難しい」ということ、それと「鉄道ネットワーク維持の観点からも検討すべきだ」というご意見もいただいております。このことについては、私どもも「鉄道ネットワークの維持は重要である」という考え方と同じであります。しかしながら、これまで弊社鉄道線の「あり方検討会」などにおいても何度も申し上げていますが、昨今の燃料・資材費等の高騰、加えて労働力不足などの外的要因により、費用が収入を遥かに上回っています。

事業として成り立たない状況となっていることにも、ぜひご理解いただきたいというふうに思います。

以上でございます。

●宇都宮部会長

ありがとうございました。

ここまで各社からお話をいただきました。私からもコメントを出させていただこうかと思います。

1つは、あいの風さんが「利用者アンケート」とニーズを把握するということで、これすごく良いことかなと思います。と言いますのも、もちろん色々やってらっしゃるところはあるのでしょうかけれども、ともすると色々アンケートを取って、ああ言われてもこう言われても、そんな対応できないよということで、結構、その手の取組みに及び腰になるケースもございます。そういう意味では、あいの風さんは、すごく積極的にそこのニーズを取り入れてより良くしていく、そういう方向性を感じました。

ぜひ広くご意見を募って、より良いものにしていただければなというふうに思った次第です。

それからもう1つは、最後新庄委員から厳しいご発言がありました。また本田委員

からもありましたので、私からもそれについてのコメントということをさせていただこうかと思います。

新庄委員がおっしゃるとおり、やはり路線延長が長く、赤字が継続しているという状況で、1事業者だけの負担で運行するというのが、これまた厳しいし、それ自体が適切とも言えないのではないかなど。

昨年策定した地域交通戦略で、地域公共交通というものは「地域の活力・魅力に直結する公共サービス」と言ってきたわけです。そこでまさに、自治体・県民の役割を、事業者の側面支援ではなく、「投資」をし、そして住民にも「参画」を求める、こういう大きな方向性を出したわけです。

今回も、先ほどのご報告もあり、本田委員からもあったが、分科会でいろんな維持・活性化方策の検討が行われているということあります。本田委員からも「非常にそこはちゃんと慎重に検討すべきだ」というご意見もございましたし、私もその通りだと思います。万が一廃止ということになると、鉄道というのはまさに地域公共交通ネットワークの要があるので、そこを無くすということになると、それを補うだけの公共サービスを持ってウェルビーイングを高められるかどうか、ということは、非常によくよく考えなければいけない問題であり、非常に重要な問題であって、そういう意味では、先ほど新庄委員からあったでしょうか、あるいは本田委員が「新聞報道で年内ということがあった」と聞いていますが、そこは時間をかけ、丁寧に協議・検討しないと、まさに「公共サービスを持ってウェルビーイングを達成していく」という戦略と反するのだろうなと思います。

したがって、鉄道ネットワークをまずは維持するという観点から、なんせ「公共サービス」ですから、公的な資金を含めてしっかり支えていって、しっかり議論していく、そういう時間が必要なのかなというふうに思いました。

ちょっと私としては個別に踏み込んだ発言になってしましましたが、もし新庄委員、何かございますか、今の話で。

●新庄委員

今ほど宇都宮部会長から、弊社鉄道線の赤字継続というこの状況が、事業者だけの負担で運行を継続するということは適切ではないのではないか、というようなコメントをいただきました。一方で、鉄道線の廃止は重要な問題であるということから、もう少し時間をかけて協議・検討を行うべきではないか、というような発言もございました。さらには、鉄道ネットワークを維持するという観点からすれば、公的負担の必要性についてもご意見されました。そういったことから、この戦略会議の部会においても、弊社の厳しい状況にご理解がいただけたのではないかというふうに感じております。

弊社としても、先ほども申しましたけれども、鉄道ネットワーク、その維持というものは、このような難しい状況にあっても、重要で、かつ最優先すべき課題だという思いは、今も変わっておりません。

今日の部会で出ましたこれら発言を、社内を含めて関係者で共有して、対処してまいりたいというふうに思っております。

以上です。

●宇都宮部会長

ありがとうございます。

公共サービスをしっかり支えていただくお立場かと思います。富山県のウェルビーアイングの向上に向けて、よろしくご検討いただきたいと思います。

その他、私、あいの風にもお話を伺いましたけれども、何か各委員、これまでの議論の中でコメント、あるいは追加のご意見はありますでしょうか。

会場の雰囲気、オンラインなのでなかなか肌感覚で感じられないのですが、大体議論は出そろったかなということであれば。

●事務局

事務局からですが、特にご意見は無いようでございます。

●宇都宮部会長

分かりました。それではどうもありがとうございました。

では意見も出そろったということで、まとめていきたいと思います。

本日、繰り返し「投資」・「参画」ということが出てきましたが、本当に取組み、いろんなものがスタートして継続された結果、目標に向けた着実な進捗というものが見られたというご報告があつて、非常に良かったなと思うのですが、その点について1点事務局にお願いになりますが、こういう形で目標に向かって数字が動いたという、この背景、あるいは要因、より分かれば具体的にどういう施策が功を奏したか、この辺りが分かると良いと思うので、分かる範囲で結構ですけれども、ぜひ、この数字が好転した背景というのをちょっと調べていただけたらなというふうに思います。

それから、各委員からもいろいろ取組みの話が出て、個々には申し上げませんけども、先ほどのあいの風、あるいは本田委員からも、普段鉄道を利用していない人に対してどういう風にアピールするか、あるいは、私は非常に良いなと思ったのは、デザインですね。普段は必ずしも鉄道とか公共交通を利用しない人たちも、「こんなデザインいいな」ということで、今回の城端線・氷見線の新しい車両のデザインについて、気運醸成を図っているのはすごく良いことだなと思いました。

ポイントは、結局どこの地域も人口が減少している中で、利用者が減っていくというお悩みがあるわけだし、おっしゃるけれども、実は潜在需要はまだまだあるはずです。それは何かというと、大多数の「公共交通を利用していない方々」をちょっと取り込むだけで、十分、利用者はまだ増えるわけであり、そういう思いで戦略を作っているわけです。そのために、まさに「投資」をし、またその投資でより使いやすくなったり、あるいはいろんな取組みによって「参画」を促すということですので、私とし

では、ぜひこれからも、とりわけ公共交通に今まで関心がなかった人たち、あるいは普段使わない方々、そして本田委員からもあったように、これから使うか使わないかの別れ目にある若い人たちですね。本当に、富山大学さんが頑張っていらっしゃるけれども、ぜひこの動き、高校の名前も出たが、ぜひ大学・高校と広げていただき、将来のユーザーというものをしっかりと獲得していただきたいし、できるのではないかなど、こういうふうに思った次第でございます。

ぜひ事務局におかれても、それらを含めて目標達成に向けて、本日のご意見を踏まえつつ、今後の取組みの検討に活かしてほしいなというふうに思った次第でございます。

そんな感じで、本当にオンラインのまとめで恐縮ですが、よろしゅうございますか。それでは、本日の部会の議事は以上でございます。

本日いただいた議論について、次の全体会議でもご報告させていただきたいと思います。

皆様のご協力により、議事順調に進行しました。感謝申し上げます。

それでは事務局の方にマイクをお返ししたいと思います。

4 閉会

●田中交通政策局長

部会長はじめ委員の皆さん、本当にありがとうございました。

今日は、目標に対する最新の進捗状況を報告させていただきましたが、委員の皆様方からは、普段やはり利用していない方の利用を、さらに工夫している学生さんなり、そういう方を巻き込んで展開していくことですとか、利用されていない方に企画きっぷ、そういうものも活用し、部会長からお話をありがとうございました、「潜在需要」ということで、普段から利用されない方に少しでも公共交通を利用していただく、それが目標達成につながる、このようなご意見もいただいた。

また部会長からは、今回お示した最新の進捗状況の数値の分析というのを、事務局として宿題という形になりました。全体会議は来月予定しているので、その場でご報告をさせていただきたいと思います。

本日いただきましたご意見を踏まえまして、県としましても目標達成に向けてさらに努力をしてまいりたいと思います。

委員の皆様方におかれましても引き続きご協力を願いいたします。

本日はありがとうございました。